

シリーズ「これからの授業づくりのポイント」④

特別支援学校・特別支援学級

生活単元学習

「生きる力」を 子供主体の生活単元学習で



県教育センター
指導主事
石井 貴也

生活単元学習は、「各教科等と合わせた指導」の代表的な指導の形態であり、知的障がいを対象とする特別支援学校や特別支援学級の教育課程に多く位置付けられています。特別支援学校学習指導要領総則及び指導要領解説には、「各教科等と合わせた指導」についての説明が新たに加われました。また、生活単元学習の留意事項も、より充実した内容で示されました。

学習指導要領と生活単元学習

生活単元学習について、現行の指導要領解説より、特に次の波線部分の文言が変わりました（波線は筆者）。

「児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際の・総合的に学習するもの」であること、「一

人一人の児童生徒が力を発揮し、主体的に取り組むとともに、集団全体で単元の活動に共同して取り組めるもの」であること。

子供自身が目標をもち、主体的に活動することを通して、その目標を達成するまでの過程が、これまで以上に大切に扱われていると言えるでしょう。

生活単元学習の授業づくりに当たって
授業づくりに当たっては、次の事項を大切にします。

- ① 子供にとって現実度の高い実際の活動（やりたいこと、好きなこと、生活上の必要感がある活動）であること。
- ② 一人一人が力を発揮し「自分から」「自分で」活動しながら仲間と一緒に取り組めるように、活動内容や教材教具を工夫すること。
- ③ 教師は子供とともに活動しながら、

子供の主体的な活動を促すために必要な支援をするよう心掛けること。

- ④ 各教科の系統性に基づいて組織するのではなく、生活の流れやまとまりに基づいて組織するよう留意すること。生活に結び付いた内容に主体的に取り組んだ結果として、教科や領域の内容を習得すると捉えること。

実践を重ねて「生きる力」を

県内でも、生活単元学習の様々な実践が行われています。例えば、「じんだんだんごを作って食べよう」、「カレンダーを作ろう」、「誕生会をしよう」、「かかしまつりに出品しよう」など、どれも身近な話題や興味をひくテーマを設定し、子供主体の活動になるように工夫された実践です。

こうした取組みは、子供達に満足感や達成感をもたらし、さらには自立し、社会参加するために必要な「生きる力」の育ちにつながります。

（参考）国立特別支援教育総合研究所「生活単元学習を実践する教師のためのガイドブック」https://www.nise.go.jp/kenshuka/josa/kankobutsu/pub_b/b-198.html